

社会科教室

第 140 号

平成10年度総会特集号

- ・ 組織と運営
- ・ 年間計画
- ・ 研究主題
- ・ 会員名簿

香川県小学校教育研究会社会部会
香川県社会科教育研究会



香社研の「飛躍」の年に

香川県小学校教育研究会社会部会
香川県社会科教育研究会
会長 上川 敦生

21世紀を目前に控え、今、学校教育の変革が問われている時代であります。時代の急速な変化に伴い、教育の不易ともいえる学校教育目標に加えて、情報化、国際化、高齢化、環境問題、人権問題等教育の流行ともいえる教育課題にも取り組まなければなりません。

このような折、中央教育審議会答申を受けて教育課程審議会の最終答申が出されようとしている年に、香川県社会科教育研究会が練り鍛えた理論と実践を世に問うこととし、5章にまとめて、明治図書から発刊する運びとなったのが、「総合学習・社会科学学習の展開」という研究図書です。

研究図書「総合学習・社会科学学習の展開」で中心となる主張は、「生きる力」をいかに培うかということにつきます。「生きる力」の育成を真の学力形成ととらえ、ここ5年間取り組んできました。その一つが総合学習を新教育課程の中核にすえて構想したことです。また、もう一つの今日的主張は、厳選による新社会科学学習の構想です。教育内容の厳選により、ゆとりをもって子どもの認知の過程を追究する社会科学学習です。

まだまだ未熟であります。本の発刊を土台とし、平成10年7月31日の夏の研修会、平成11年2月11日（木）、12日（金）の全国小学校社会科研究協議会とさらに研究と実践を深めて、今年が香社研の「飛躍」の年になればと考えます。そのためにも、大勢の方々の協力と温かいご指導、ご助言をいただけますよう心からお願いいたします。

平成10年度の組織と運営

(1) 組織について

① 本部役員

	氏 名	学 校 名	〒 学校所在地	学校電話
会 長	上川 敦生	高・木太小	761 高・木太町3480-1	087-861-6337
副会長	丸野 忠義	坂・東部小	762 坂・室町1-1-21	0877-46-0234
	古市 聖治	大・津田小	769 大・津田町津田144	0879-42-2047
	大西 孝典	観・常磐小	768 観・植田町365	0875-25-2988
幹 事	伴 文夫	高・亀阜小	760 高・亀岡町10-1	087-861-2013
	川田 裕史	高・四番丁小	760 高・番町1-5-1	087-851-8390
	丸野 昭善	坂・中央小	762 坂・寿町3-1-2	0877-46-2124
会 計	三原 一夫	善・中央小	765 善・文京町4-5-1	0877-62-1616
監 査	鎌野 修	香・塩江小	761 香・塩江町郷土374-1	087-893-0027

② 顧問
(歴代会長)

杉岡 茂	神原 萬吉	高嶋 利市	岩倉 良行
糸川 達	東原 岩男	柳 清茂	池内 博
岡野 啓	亀山 信夫	川田 豊弘	亀井 達男
岡田 弘治	曾根 照正	中田 清	

③ 常任指導者

岡田 弘治	曾根 照正	中田 清	河津 學
-------	-------	------	------

④ 総 務

旅田 敏弘	福岡 和信	喜多 文彦
-------	-------	-------

⑤ 平成10年度全国大会会場校

郡・市	校 名	校 長 名	〒 学校所在地	学校電話
高松	四番丁小	川田 裕史	760 高・番町1-5-1	087-851-8390
高松	亀阜小	伴 文夫	760 高・亀岡町10-1	087-861-2013
坂出	中央小	丸野 昭善	762 坂・寿町3-1-2	0877-46-2124

⑥ 全国大会役員

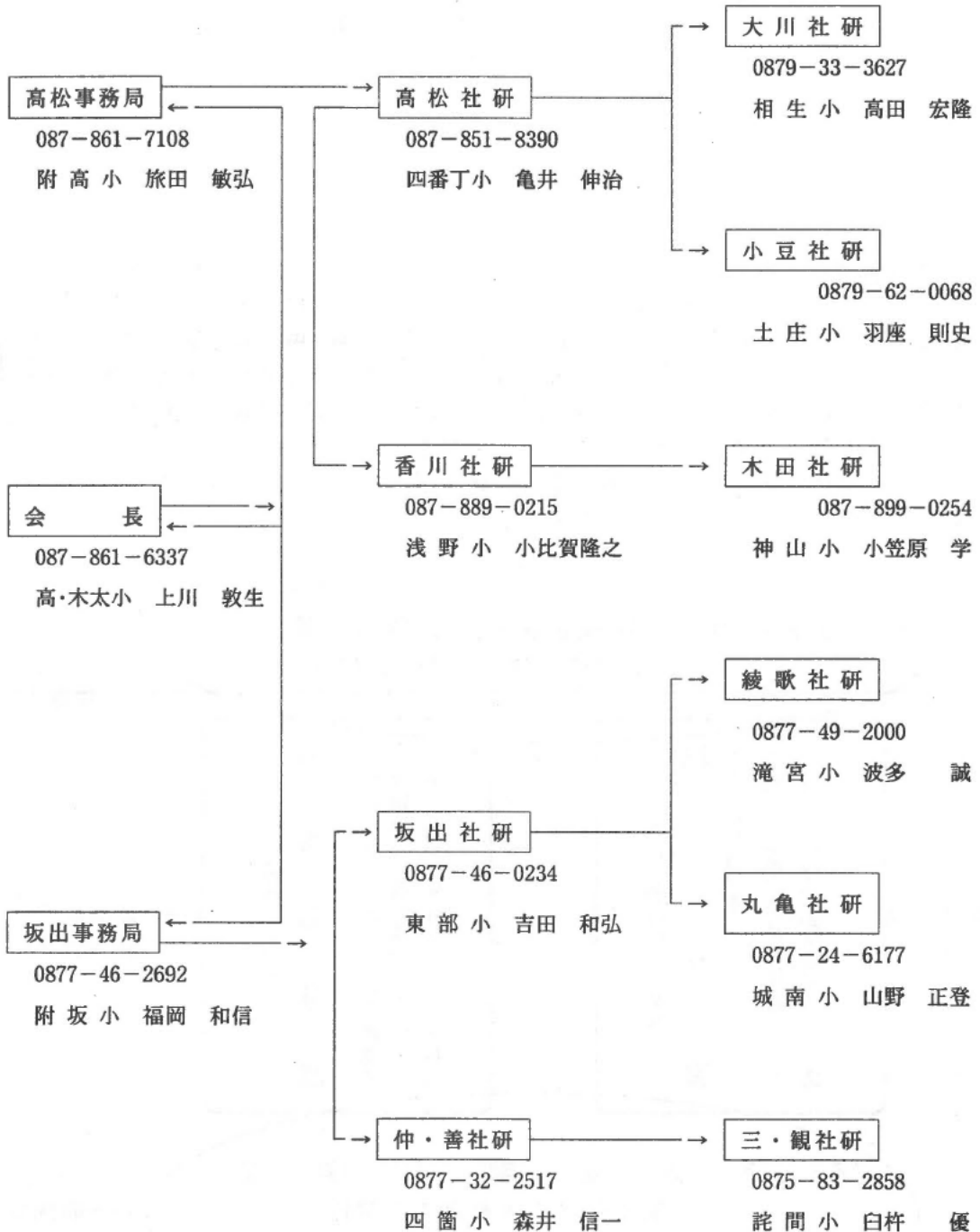
大会運営委員長	上川 敦生（高松市立木太小学校校長）
大会運営副委員長	会場校校長 川田 裕史（高松市立四番丁小学校校長） 会場校校長 伴 文夫（高松市立龜阜小学校校長） 会場校校長 丸野 昭善（坂出市立中央小学校校長） 香川県社会科教育研究会副会長 丸野 忠義（坂出市立東部小学校校長） 香川県社会科教育研究会副会長 古市 聖治（津田町立津田小学校校長） 香川県社会科教育研究会副会長 大西 孝典（観音寺市立常磐小学校校長）
大会運営委員	四国四県会長 各郡市理事（別紙）
顧問	香川県教育委員会教育長 高松市教育委員会教育長 坂出市教育委員会教育長 香川県教育委員会義務教育課課長 高松市教育委員会学校教育課課長 坂出市教育委員会学校教育課課長
参与	香川県小学校長会長 香川県小学校教育研究会会長 高松市小学校長会長 坂出市小学校長会長
講師	押谷 由夫先生（文部省教科調査官） 北 俊夫先生（文部省教科調査官） 高野 尚好先生（筑波大学教授）
大会事務局長	旅田 敏弘（香川大学教育学部附属高松小学校）
大会事務局次長	真鍋 道博（高松市立四番丁小学校教頭） 高橋 英式（高松市立龜阜小学校教頭） 亀井 彰（坂出市立中央小学校教頭）
大会研究推進局長	林 靖子（高松市立弦打小学校校長）
<事務局分担>	
・総務部	旅田 敏弘（香川大学教育学部附属高松小学校教諭）
・庶務、運営部	福岡 和信（香川大学教育学部附属坂出小学校教諭）
・研究部	喜多 文彦（香川大学教育学部附属高松小学校教諭）
・宿泊、輸送部	亀井 健男（香川大学教育学部附属高松小学校教諭） 佐柳 仁（香川大学教育学部附属坂出小学校教諭）

郡市理事名簿

郵便番号	郡市	町名	校名	○	理事名	勤電話
760-0017	高松市	番町	四番丁小		川田裕史	087-851-8390
760-0006	"	亀岡町	亀阜小		高橋英武	087-861-2013
760-0017	"	番町	四番丁小	○	亀井伸治	087-851-8390
760-0061	"	築地町	築地小		福家親夫	087-831-7188
763-	丸亀市		城乾小		宮武順一	0877-22-8158
763-	"		城南小	○	山野正登	0877-24-6177
762-0007	坂出市	室町	東部小		丸野忠義	0877-46-0234
762-0007	"	室町	東部小	○	吉田和弘	0877-46-0234
761-4145	小豆郡	土庄町	大部小		亀山久嘉	0879-67-2120
761-4106	"	土庄町	土庄小	○	羽座則史	0879-62-0068
769-24	大川郡	津田町	津田小		古市聖治	0879-42-2047
761-09	"	大川町	松尾小		八木育夫	0879-43-3016
769-25	"	大内町	誉水小		三好憲昭	0879-25-2044
769-29	"	引田町	相生小	○	高田宏隆	0879-33-3627
761-0822	木田郡	三木町	神山小	○	小笠原学	0878-99-0254
761-1612	香川郡	塩江町	塩江小		鎌野修	087-893-0027
761-1703	"	香川町	浅野小	○	小比賀隆之	087-889-0215
761-1706	"	香川町	川東小		長谷民子	087-879-2012
761-2207	綾歌郡	綾上町	羽床上小		関根建一	087-878-0820
769-0103	"	国分寺町	国分寺南部小		松下繁美	087-874-1160
769-0208	"	宇多津町	宇多津北小	○	波多誠	087-849-2000
781-2101	"	綾南町	昭和小	○	有岡俊文	087-877-0519
766-0017	仲多度郡	琴平町	長炭小		山下清明	0877-79-2006
766-0032	"	多度津町	四箇小	○	森井信一	0877-32-2517
766-0026	"	多度津町	豊原小		山田泰二	0877-32-2050
768-0012	観音寺市	植田町	常磐小		大西孝典	0875-25-2988
769-1504	"	豊中町	上高野小		西谷則一	0875-62-2064
769-1102	三豊郡	詫間町	松崎小		安藤清和	0875-83-2856
769-1101	"	詫間町	詫間小	○	白杵優	0875-83-2858

連 絡 網

香社研連絡網



未来に生きる人間づくりの教育

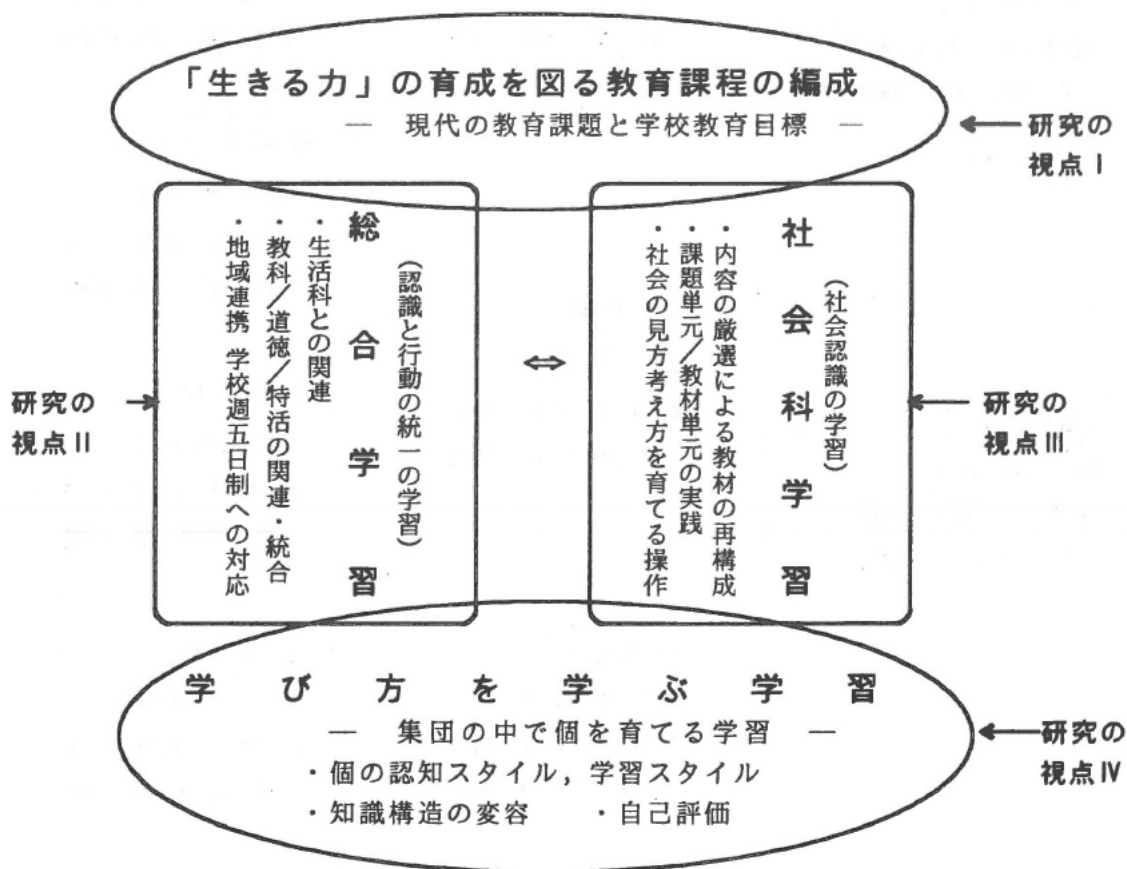
－ 生きる力の育成を図る社会科・総合学習の展開 －

香川県社会科教育研究会

はじめに

中央教育審議会による答申，それを踏まえた教育課程審議会による中間まとめでは，21世紀を展望した我が国の教育の在り方ということで，子どもに「生きる力」と「ゆとり」をとということが提言された。各学校が創意工夫を生かし特色ある教育を展開することの重要性も指摘され，教育課程の編成と学習内容の厳選，授業研究の在り方等の検討が示されたのである。その大きな柱として，横断的・総合的学習の推進が求められている。

そこで，香社研としては，本年度の研究テーマを「未来に生きる人間づくりの教育－生きる力の育成を図る社会科・総合学習の展開－」とし，平成10年度全国社会科研究大会に向けた研究の視点を明らかにしておきたい。



Ⅰ 「生きる力」の育成を図る教育課程の編成

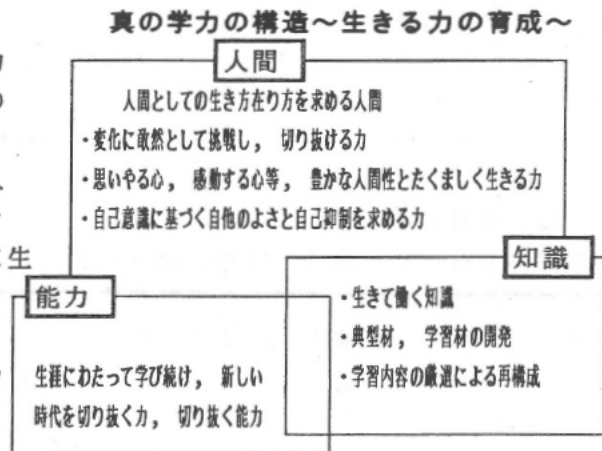
(1) 真の学力を能力・人間・知識から観る

新しい学力観については、「今までの知識の量的な習得への偏りを修正して、子どもの成長・発達や将来の生活に生きて働く能力（学ぶ意欲・思考力・表現力・判断力など）や資質（創造性豊かな個性・社会性）の育成を重視し、人間としての生き方・在り方を求める」と説明されている。即ち、児童一人一人の学ぶ意欲を大切にしながら、思考力、判断力、表現力などの能力育成を重視したものである。

社会の変化に主体的に対応できる能力を育成することは、21世紀を生きる児童にとって必須条件といっても過言ではない。だが、その一方で社会の構成員であり、自らの努力で公民的資質を高めなければならない側面も有している。従って、真の学力は思考力、判断力、表現力などの能力育成にとどまらずに、それらの能力を生かして、人間としての生き方・在り方を考える学力ととらえたい。総合的に、生きて働く力としてとらえるということである。そのためには、単に社会事象を知る、人々の営みが分かるというだけでなく、それらのよさが分かり、自分を理解し、社会の構成員としての誇りがもてる。また、課題に対しては、自ら社会に働きかけられるようにすることが大切である。

真の学力は、これに知識を加え、学力の構造を「生きる力」の育成から右図のようにとらえたい。

すなわち、真の学力育成の中核を、人間とすることである。人間としての生き方・在り方、もっといえば、「自他共に生き、互いに人間としてのよさを出し合い、認め、高め合う」ことを中核とする。そして、それを支えるものに、能力と知識とを考えたいのである。



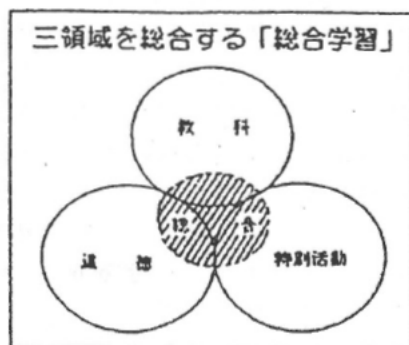
知識については、知識の量的な偏りを改めなければならないとしても、知識を軽視してはならない。子どもの認知過程を探究すると思考力・表現力・判断力などの能力は、知識と深い関わりをもって育成されるのである。記憶中心の知識ではなく、生きて働く知識としてである。知識と能力との関わりは、能力を育てる知識と、新しい知識を得る能力の二つの関わりをもつ。思考力・表現力などの能力は、子どもの発達を促す内容をもつ知識を媒介として育てられ、新しい知識を獲得していく。そして、その知識が生きて働く知識として、より高次の思考力・表現力などを育てていく。

このように、知識は、能力とともに生かされ、高められていくものであることからして、貧弱な知識や情報では役に立たないのである。そして、この知識は、一時間の授業の過程では、授業の始めの一人一人の子どもの知識構造と一時間の授業の終わりの知識構造とでは、変容し、深化していなければならない。このように知識は、重視されるべきなのである。

(2) 真の学力育成を目指す教育課程の編成

我が国の教育課程は、教科、道徳、特別活動の三領域に定められている。そして、教育課程は各学校の校長が編成するのであるが、三領域は、それぞれに目標が異なっており、三領域それぞれに教育課程を編成している学校がほとんどである。(1)で述べた真の学力のうち人間としての生き方・在り方を求める教育課程は道徳の時間だけに任されている場合が多い。体験を重視し、学ぶ意欲をもって取り組む特色のある教育課程を編成することは難しいようである。

真の学力を育成するには、このばらばらな教育課程を総合し、体験を軸に子どもの主体的な学習や活動を創ることが大切である。総合的に生きて働く力の育成を目指し、人間づくりということを根底とした総合学習の構想が必要なのである。



II 総合学習

(1) 総合学習の構想

総合学習は教科や道徳の学習と同じように「単元化」を図ることが前提である。まず、課題があり、それを解決していく見通しをもつことから始まる。そして、課題が連続しつつ、目標を達成し解決していく一連の学習(活動)なのである。

(2) 総合学習の特色

①三領域を総合する課題と体験の軸をもつ

第1の特色は、学校の子どもの課題意識、家庭や地域の願いや教育観、学校の歴史や伝統を踏まえ、どんな体験を軸にするのが最大のポイントである。そして、それは、教育課程の三領域の教科、道徳、特別活動のどれを中心の活動として取り組むのかということになる。学校の特色を生かして、次のような総合学習が考えられている。

<例>

教科中心	・地域の自然に課題や体験をもつ構想 ・地域の社会に課題や体験をもつ構想 ・地域の文化に課題や体験をもつ構想
道徳中心	・命を大切にするという課題や体験をもつ構想 ・豊かな心をもち、地域の人々と結びつく構想
特別活動中心	・奉仕や福祉活動、地域行事への実践化を強化する構想

留意点としては、教師の意図が強くなりすぎ、あれもこれもと関連づけすぎた単元化にならないことや反対に、活動主義にはしり、学力低下にならないようにすることである。このことに留意して実践を進めていってほしい。

②表現物を作り上げることを目指す

第2の特色は、課題解決の過程を表現物に表すことである。表現物に、その学年らしい

内容と表現方法が表れることがポイントである。表現力の育成ということで、その系統を明らかにし、その学年の表現力の系統を踏まえ、個性を伸ばしていくことが大切である。

③子どもが主体的に生きて働く実践を促す

開かれた学校として、地域の人々と交流したり、地域に人材を求めたりして、体験の場を地域に求めていくことは大切である。また、他の学校と交流したり、社会に生きて働く奉仕や福祉に実践の手を差し伸べていくというように実践を促すということも、豊かにたくましく生きる人間を育成する上で大切なポイントである。

(3) 教科統合を図る

「総合学習は教科や道徳の学習と同じように『単元化』を図ることが前提である。まず、課題があり、それを解決していく見通しをもつことから始まる。そして、課題が連続しつつ、目標を達成し解決していく一連の学習(活動)なのである。」ということを(1)で述べたが、この単元化のためには、教科統合を図ることが必要である。

教科統合をし、関連と統合を図らなければ、目標の達成や解決はできないといってもいい。そこで、「横断的」という面の研究が求められているのである。

①関連と統合

総合学習は、教科、道徳、特別活動を総合するという意味と、単元化するにあたって関連と統合を図る意味をもっている。この「関連」と「統合」づけについて右図により説明する。

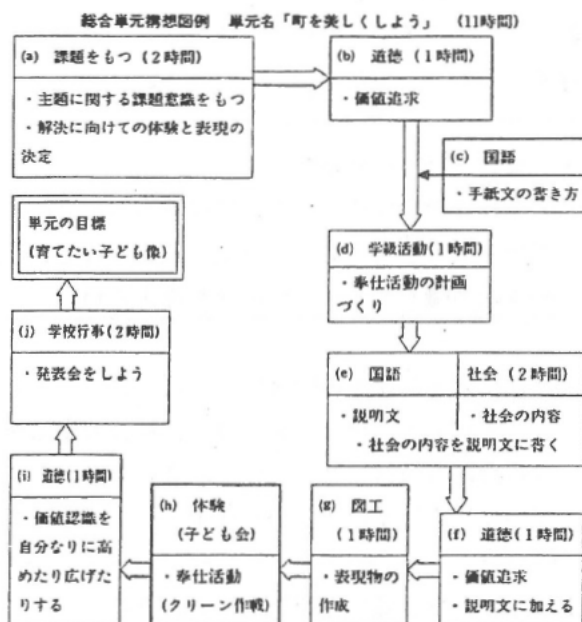
関連づけは、図のように道徳と学級活動の流れに国語で学習したことを関連づけることである。また、統合づけは、図の(b)道徳のように総合学習の流れの中に位置づけるものと、

(e)国語・社会のように、教科統合を図って位置づけるものとある。

ここでは、教科統合について詳しく述べたい。また、これは、総合学習に限って実践されることではない。

②教科統合と教科等統合

教科統合については、子どもにとって、国語の時間も社会の時間も時間割によって内容が違うというだけであって、一つの課題を解決していく、対象に働きかけていく力は国語とか社会とかの教科の枠をはずした(教科統合)学習で展開される。これは、子どもの知識構造の変容について研究を深めれば明らかになってくる。例を国語と社会の教科統合で説明しておこう。国語は「文章構成」理解の内容と「表現」の方法の二つの面をもつ。前者は、説明的文章や文学的文章についての文章の構成や作品の主題へのせまり方など内容についての理解を深めていくのであり、後者は事象についての自分の考えを文章に表現するという他の教科等の学習と結びついてくるものである。社会は、社会事象についての内容を対象にして理解を深めていくものである。



Ⅲ 社会科学学習

(1) 学習内容の厳選による、教材の再構成

①「ゆとり」と「学習内容の厳選」

中教審の答申、教課審の中間まとめの中で学習内容の厳選の必要性が強調されている。

自ら学び、自ら考えるなどの「生きる力」の育成を基調とする教育を進めるためには、「ゆとり」のある教育課程を編成することが不可欠であり、どうしても学習内容の厳選を図る必要がある。

この学習内容の厳選は、「不易と流行」を踏まえ、学校で身に付けるべき基礎・基本は何かなどを問いつつ徹底して行うべきであり、これからの社会科教育の改善にあたって急務かつ原則となるものである。

②厳選にあたっての基本的な考え方

厳選はゆとりを生み出すものになることから、当然学習内容を削っていく必要がある。と同時にこれまで積み上げてきた総合学習、社会科学学習の成果をもとに、真に子どもの課題意識と学習内容の高まりを生み出す教材を「厳しい目で選ぶ、新たに創り上げていく」過程でもある。学力の構造を踏まえ、生きる力を育成する立場から、厳選をどのような点から考えていけばよいか、その基本となるものをいくつか挙げておきたい。

ア 総合学習とのかかわり

学校課題の解決を図り、学校教育の柱となる総合学習の実践の中にどのように社会科学学習が組み入れられているか。組み入れられていない社会科学学習にどう軽重をかけつつ、子どもの課題意識を大切にしたい展開を考えるか。

イ 教材開発の視点の明確化（別項で詳述する）

「不易」と「流行」を見つめ、社会の変化を見通した学習内容とするためには、どのような視点から教材開発していけばよいか。また、学年の発達に応じて、視点の関連をどう図っていけばよいかについて考慮する。

ウ 子どもの認識の系列についての再考

「易から難」、「単純から複雑」、「近から遠」、「旧から新」など、従来の教材配列のもととなる考え方が、常に子どもたちの学びにとってふさわしいものかについて再考する。農業単元や工業単元といった領域にこだわった単元の在り方も見直す。

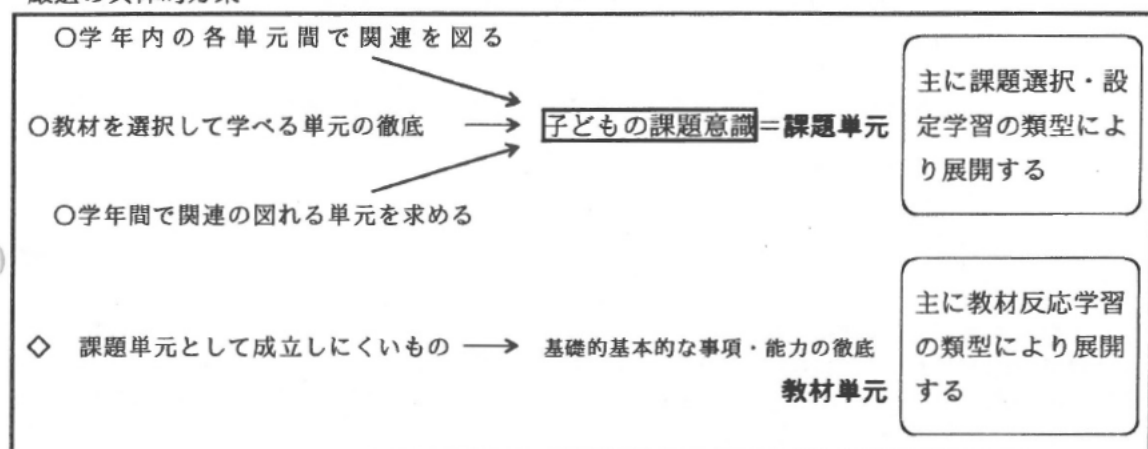
エ 小・中、学校外における関連

歴史学習においては、通史を二度行わないという表現が中教審答申で挙げられている。小学校らしい歴史学習をどう展開するかは、厳選にあたっての大きな課題である。また、週5日制に向けて、学校外の学習との関連も視野に入れたい。

③どう厳選を図るかの具体的な方策 ー領域単元から課題単元へー

身近な事例に直に当たり、自ら学び、考えることのできる「創る学習」の展開が今求められている。従来の領域にこだわった教材の構成（領域単元）から、子どもの課題意識に基づいた構成（課題単元）へと転換する。②で挙げた厳選の基本的な考え方に立って、具体的にはどうしていくかの方策について下図にあるようにまとめておく。

厳選の具体的な方策



（２）社会の変化を見通した教材開発の視点

これからの社会を展望したときに、我が国の社会は様々な面での急速な変化が予期される。それらの変化に対応する教育の在り方が当然模索されるべきである。

反面、教育においては、どんなに社会が変化しようとも「時代を超えて変わらないもの」を大切にしないてはならない。

社会の進展の中で「不易」と「流行」を十分に見つめつつ、教材として具現化していくことで、これから生きる子どもたちの生き方や在り方となって身に付いていこう。「国際化、情報化、科学技術の進展等の変化」に対応すること、また、「我が国の歴史や伝統への愛情や、豊かな人間性を希求し、人権を尊重する心」を培うということなど、今の教育、また社会科に託された役割から、教材開発にあたっては次の五つの視点を大切にしていきたい。

国際化	国際化社会が進展し、世界の中の日本人としての生き方が、求められている。広い視野をもち、異文化を理解するとともに、これを尊重する態度や異なる文化をもつ人々と共に生きていく資質や能力の育成を図ることが必要である。
情報化	様々な情報が氾濫し、マルチメディア時代となる将来、情報を主体的に処理する力が求められている。情報及び情報手段を主体的に選択し活用していくための個人的な能力、並びに人間関係の希薄化など情報化の陰の部分も勘案できる資質等の育成が求められる。

環境	環境問題については、国内の環境に留まらず、地球環境の危機としてとらえなければならない状況となっている。学校教育では、かけがえのない国土や地球の環境に目を向け、人間と自然が共存していく地球としていくために具体的な行動をとる子どもの育成が望まれている。
人間化	子ども達が将来自己実現を図りながら、変化の激しい社会で生きていく上での基準となる生き方の形成が求められる。豊かな人間性、人権意識、正義感や公正さを重んじる心、自己を律しつつ他者と協調するなどの心を尊いと感じることのできるような人間として育っていくことが重視されている。
文化	我が国が形成されてきた歴史、先達が残してくれた芸術、文学、民話、伝承などを学び、これらを大切にしていこうとする心を養うこと。また、それを現代に生かし、新たな文化の創造者・発信者として生きていこうとする資質の育成が求められる。

(3) 人間観を育てていく教材

社会科で目標とされる「内容についての知識」や「方法についての知識」をもとにして、「人間についての知識」の重視が求められている。社会の変化を見通す教材の視点とともに、生き方や在り方自体がそこに物語られている教材の開発を目指したい。

歴史学習を例にとってみる。いくつかの事象をつないで、時代の特徴やイメージについて、自分なりの考えを創り上げていく。その学習の中に、「その時代を生きた人にも、様々な悩みがありそれを乗り越える工夫や喜びがあったはずである」と、そのような人間の心のはいったドラマが描かれていけば、そこから子ども達は一人の人間の生き方や在り方を考えていけるはずである。時代をたくましく生きる姿に感動し、自らが生きる血や肉にすることができよう。

学習方法の中で、自分で自分を育てよう、たくさんの友だちの中で育てようという姿勢で学習方法を見直すとともに、もっと積極的に人間としての生き方を、感動とともに考えられる教材の開発を考えようというのである。

このことが、子どもたちに、人間としての生き方・在り方を見いださせることにつながると考える。

(4) 厳選による教材の再構成 試案

以上、(1)(2)(3)で述べてきたことをもとに、厳選による教材の再構成をどうするかを試案を示したい。

次ページから示す①は、3～6年生の教材配列、単元づくりをどうするかを表したものである。社会の変化を見通した教材開発の視点をもとに、基本課題を明らかにした。さらに具体課題を設定して、教材をどう観るかを一覧できるように表にしているところに特徴がある。

表中「課」とあるのは課題単元として実践し、主に課題選択・設定学習の類型(別項で解説)で学びを進める。「教」は、教材単元学習を表す。教材反応型学習を中心として、「学び」を重視した、基礎的・基本的事項・能力の徹底を期待する。

②は、6年生の歴史学習において、これらの人物を取りあげて指導を行うことが適切であると例示された42人の人物を「時代の特徴・イメージ、人間としての生き方・在り方を学ぶ」という点から厳選して重点的に取りあげる試案である。

①、②ともに、あくまでも試案である。これから、さらに見直し改善を図っていきたい。これをたたき台に、各学校で総合学習との関連に立つての社会科厳選プラン開発が望まれる。

		3 年			4 年		
基本課題	具体課題	教科書の教材配列	教材の再構成による厳選プラン	解 説	教科書の教材配列	教材の再構成による厳選プラン	解 説
世界の中の日本人	国際関係と平和の確立			Iについて ○ 教科書の教材配列にある1・2を一つの単元として構成する。			Iについて ○ この単元は、3年生Ⅳの「くらしの変化」での課題をうけて設定する。何をとりあげるかについては、地域の実態に応じて選択することを徹底する。
地球環境にやさしく	生命財産資源の保護・保全			・ 絵地図を単元を通した表現物とする。その中に、まちにある「公共施設や店」と「それらを利用する人々のようす」、生産活動、環境をまもるための活動(ごみ回収を含む)を加えていく。	2安全なくらしを守る ・ 交通事故からくらしを守る ・ 火事からくらしを守る	Iわたしたちのくらしの安全を守る仕事のようすを調べよう ・ 交通事故から ・ 火事から	課
	環境の保護・保全	I みんなでつくるまち ・ 花とみどりのまちづくり ・ みんなのじどうセンター	I わたしたちのまちをたんけんして人びとのくらしをさぐる ・ まちをたんけんして絵地図をつくらう ・ 人びとのくらしをみつめよう ・ 他校の友だちと絵地図をこうかんにして市のようすをしらべよう	・ 絵地図にして調べたことを他校と交流することで、市全体のようすを明らかにしていく。 ・ 単元Ⅱ・Ⅲ・Ⅳで学ぶ内容を含んでいることで、以後の学習の課題をもつ。	1住みよいくらしをささえる ・ くらしをささえる水 ・ ごみと住みよいくらし	II ごみのゆくえを調べよう	教
くらしをひらく生産と消費	生活圏の広がりや他地域とのかわり	3 わたしたちのくらしのものをつくるしごと ・ かまぼこをつくる工場 ・ 市の工場できつているもの	II わたしたちのくらしのものをつくるしごと	II・IIIについて ○ 生産・消費活動について何を取り上げるか、地域の実態に応じつつ、選択して学ぶことを徹底する。	3 わたしたちの県 ・ 自然と人々のくらし ・ 県の広がりやとくらし		IIIについて ○ 教科書の教材配列にある1・4を一つの単元として構成。郷土香川における水のもつ意味・人々の願いを課題として、現在/過去と考えていく。 ・ 3・4年を通して基本課題「世界の中の日本人」がないことに配慮する。
	生産・流通・消費のしくみの変化	4 わたしたちのくらしと商店 ・ スーパーマーケット ・ 買い物の工夫	III わたしたちのくらしと商店		5 各地のくらしとわたしたちの国土 ・ 山奥の人々のくらし ・ 平野の人々のくらし ・ 大きな川沿いのくらし ・ 海沿いのくらし	IV わたしたちの県のようすを調べ、他の土地とくらべよう	課
	地域環境と人々の生活	2 わたしたちの市のようす ・ 学校のまわりのようす ・ 市ぜんたいのようす					
地方からの文化発信	人権の確立と民主政治			IVについて ○ Iの学習が環境に視点を置いていることと関連を図って構成をする。			IVについて ○ 教科書の教材配列にある3・5を一つの単元として構成。特色のある地域としての事例は、一つにする。国土の自然とくらしは、5年生に移動する。
	社会の発展と人間の歩み	5 かわってきた人びとのくらし ・ むかしをしらべる ・ くらしのうつりかわり ・ つたえる人・うけつぐ人	IV まちのようすやくらしがかわったことを絵地図にしよう ・ まちのむかしをたずねて絵地図をつくらう ・ 絵地図をくらべてくらしの変化をさぐる	・ 地域の生活環境の変化をみる。 ・ Iでつくった絵地図との比較をする。	4 きょうどうを開く ・ 台地に水を引く ・ 新しい地域づくり	III くらしを高める願い わたしたちの郷土と水とのかかわりを調べよう ・ くらしの中の水 ・ 香川用水 ・ 水を求めた先人の努力	課

		5 年			6 年		
基本課題	具体課題	教科書の教材配列	教材の再構成による厳選プラン	解 説	教科書の教材配列	教材の再構成による厳選プラン	解 説
世界の中の日本人	国際関係と平和の確立	3わたしたちの生活と運輸 ・生産地と結ぶ ・世界と結ぶ ・貿易と運輸		I について ○ この単元は、教科書の教材配列では、第4学年5「各地のくらしとわたしたちの国土 一国土の自然とくらし」にある内容を基盤としている。	3世界の中の日本 ・日本と関係の深い国々 ・平和を願う政治	III 世界の中の日本人としての生き方を論文にしよう ・日本と深く結びつく国々と人々のくらしを調べて	I について ○ 時代と時代の因果をつかむことにもねらいをもった通史的な歴史学習になることのないよう配慮する。その時代の特徴やイメージが豊かにふくらむことにねらいをもつ。
	地球環境にやさしく	2(4)これからの工業と環境 5わたしたちの生活と国土 ・人口のかたより ・環境を守る森林の働き ・限りある地球と日本の国土	I わたしたちの国土の地図を開いて、人々のくらしを調べよう ・環境 ・地形 ・人口 ・生産	教 ・基本図や資料をもとに、環境、地形、人口分布、生産の全国的な傾向や問題点をつかむことをねらいとする。この単元で出てきた視点をもとに、以後の学習の課題とする。	3(2)地球の環境と世界の平和	III (2) 地球の環境と世界の平和を守る働きを調べて	教 ・地域に残る文化財、先人を窓口にしてその時代の特徴・イメージのつかめるものにふれていく課題単元とする。 ・この学習にあたっては、必ずしも時代順に学ぶことを必要としない。 ・地域を通して学ぶことが難しい時代像については、教材応用型の学習で描いていく。その際、取りあげる人物については、別項のように厳選して考える。
くらしをひらく生産と消費	生活圏の広がりや他地域とのかかわり	4わたしたちの生活と情報 ・放送局で働く人々 ・情報の働き					
	生産・流通・消費のしくみの変化	1わたしたちの生活と食料生産 ・食育のきかんな食内平野 ・資源のきかんな地産 ・日本の農産物と消費 ・水産物のきかんな地産 ・これからの食料生産 2わたしたちの生活と工業生産 ・伝統的な技術を生かした工業 ・産業革命をつくる工業 ・工業地帯と工業生産	II スーパーマーケットから農業生産のようすを調べよう III 商店街の品物から工業製品の生産のようすを調べよう	課 II・III・IVについて ○ 工業にとどまらず、運輸通信との関連を図った再構成とする。流通や情報の働きに目を向けつつ、領域を越えた課題単元にする。			
	地域環境と人々の生活		IV 郷土の伝統工芸品から、生産のようすを調べよう	教 V について ○ 1年間に学んできたことをまとめて情報発信する。情報の正しい収集や活用の仕方、伝達の方法を身に付けることの大切さを、実践を通して気づく場とする。その過程に新聞社の情報と国民生活とのかかわりや影響について学ぶ場を位置づける。			II について ○ 身近な公共施設ができるまでを調べる過程で、政治の働きが反映していることや、民主政治の基になっている日本国憲法の基本的な考え方を取りあげる展開とする。
地方からの文化発信	人権の確立と民主政治				2わたしたちの生活と政治 ・みんなの願いを実現する政治 ・一人一人を大切に政治	II 瀬戸大橋(例)ができるまでを調べ、政治とのかかわりを新聞にしよう I 地方史からの歴史調べをしよう ・地域に残る文化財や先人を窓口それぞれの時代のとくちようをつかもう	課 III について ○ 世界の中の日本人としての生き方・在り方を自ら問うていく課題単元とする。
	社会の発展と人間の歩み		V 農水産・工業・伝統工芸の生産から郷土のほこりを新聞にして情報発信しよう	課 (1) わたしたちのまちの歴史探検 (12) 長く続いた戦争と新しい日本の出発		・我が国の歴史に残る先人の業績や生き方に学ぼう	

②歴史学習を見直す厳選 試案

歴史学習の内容をどう再構成するかについて、中教審の答申では、以下のように述べられている。

我が国の歴史に関する学習などは繰り返し学習することの効果もあるが、小学校と中学校とでいわゆる通史を二度行わないようにすること（中略）など、学校段階における重点の置き方に一層の工夫を加えるなどして、各学校段階間または各学年間で重複する内容については、できるだけ精選を図る。

これまでも小学校の歴史学習が、中学校の薄墨になっているとの批判はあったのだが、具体的な実践となりにくかったということがいえる。今回の答申にある「重点の置き方への工夫」を受け、小学校らしい歴史学習のねらいを「その時代の特徴やイメージが豊かにふくらむ」とこととしたい。時代から時代へと移り変わる因果関係にも目を向けてきた学習からはっきりとした転換を図る。

そのために、地域に残る文化財、先人を窓口にして、その時代の特徴・イメージのつかめるものにふれていく課題単元の実践を考えたい。どうしても地域を窓に学ぶことが難しい時代像については、教材単位として扱い、教材反応型の学習で描いていく。

両者の実践にあたって、どの人物を取りあげることが、「時代の特徴やイメージにつながるか」、
「人間としての生き方・在り方が学べるか」と厳選を考慮して挙げたのが、以下の表である。

卑弥呼	聖徳太子	小野妹子	中大兄皇子	中臣鎌足	聖武天皇	行基	鑑真
藤原道長	紫式部	清少納言	平清盛	源頼朝	源義経	北条時宗	足利義満
足利義政	雪舟	ザビエル	織田信長	豊臣秀吉	徳川家康	徳川家光	
近松門左衛門	歌川（安藤）広重	本居宣長	杉田玄白	伊能忠敬	ペリー		
勝海舟	西郷隆盛	大久保利通	木戸孝允	明治天皇	福沢諭吉	大隈重信	
板垣退助	伊藤博文	陸奥宗光	東郷平八郎	小村寿太郎	野口英世		

Ⅳ 学び方を学ぶ学習

昨年度来、平成10年度に開かれる全小社研大会を目指した授業改造の視点を示してきている。

授業に「ゆとり」をもって、問題解決的学習を展開し、集団の中で個を育てるという立場から、いじめ対策等にも心した、個に応じた授業を試みる。

- ・ 問いと論証の過程 ～認知過程～ を探究する。
- ・ 子ども理解に立つ指導案を工夫する。
- ・ 子どもの感性、感じ方を広げる支援・援助を工夫する。
- ・ 子どもの成長過程の違いに目を向けた体験・表現重視による真の理解を図る。
- ・ よさを生かし伸ばすことと、自己抑制の力を育てることの両立を図るため、「自己意識・自己理解」の究明をする。

豊かでたくましく生きる人間づくりを求める上での、真の学力の構造である、

生きて働く知識をもち

生涯にわたって学び続ける能力を備え

人間としての生き方、在り方を求める

を踏まえ、これからの総合学習・社会科学習では、その基盤となる「問いと論証の過程」にどのような理論と実践を展開し、授業研究の在り方を探っていけばよいのか。総合学習の実践を積んできたことの成果から社会科授業を見つめ直してみたこと、また上に挙げた今後の授業改造の視点を含めながら、その理論・実践の柱を

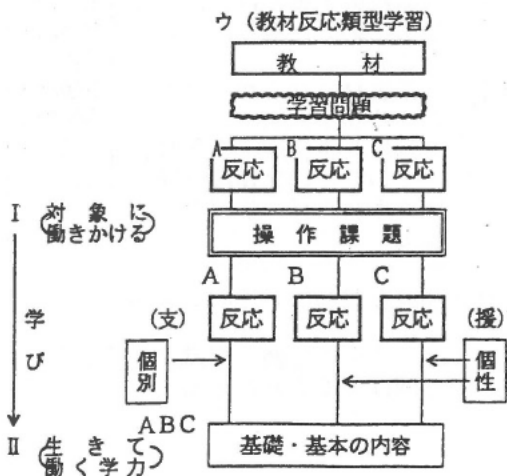
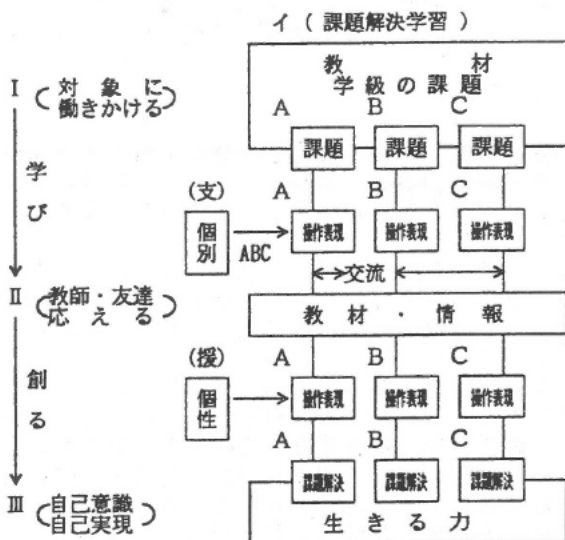
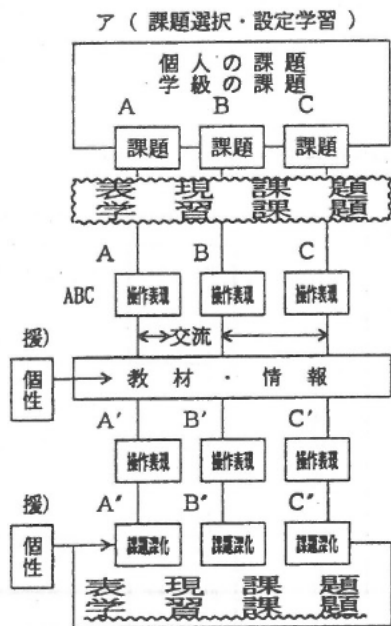
- 1 総合学習，社会科学習（課題単元学習，教材単元学習）の三つの学習類型について
- 2 知識構造の変容を図る授業構成
- 3 豊かにたくましく生きる人間づくりを求める教師の支援・援助活動

と置いて、以下論を進めることにしたい。

(1) 総合学習、社会科学習（課題単元学習）、社会科学習（教材単元学習）の三つの学習類型について

真の学力を育成するには、個に応じた学習として、指導の個別化と学習の個性化を図っていかねばならない。教材や学習課題のちがいによって子どもの認知過程が異なることから、いくつかの学習類型が考えられる。

ア 課題選択・設定学習（総合学習） ， イ 課題解決学習 ， ウ 教材反応類型学習 の三つを、その類型として考えたい。



アは、課題を選択したり設定したりして個性重視の学習を進める類型である。学習問題と同時に表現課題をもつことに特徴がある。総合学習を進めるにあたって基本となる学習の類型である。

イは、「学び」から「創る学習」への過程により、自己意識・自己実現を高める学習である。社会科学習において課題単元の学習を進めるにあたって主に展開することの期待される類型である。（課題単元については、別項で解説している。）

ウは、教材に対し操作をしながら知識構造を深めていく「学び」中心の学習である。基礎的基本的な事項や能力の徹底を図る社会科の教材単元学習に適している。

(2) 知識構造の変容を図る授業構成 ～問いと論証の過程として～

①生きて働く知識は、能力との深いかわりをもって育成される

知識については、知識の量的な偏りを改めなければならないとしても知識を軽視してはならない。子どもの認知過程を探究すると思考力・表現力・判断力などの能力は、知識と深い関わりをもって育成される。記憶中心の知識ではなく、構造化された生きて働く知識としてである。

知識と能力との関わりは、能力を育てる知識と、新しい知識を得る能力の二つの関わりをもつ。思考力・表現力などの能力は、子どもの発達を促す内容をもつ知識を媒介として育てられ、新しい知識を獲得していく。そして、その知識が生きて働く知識として、より高次の思考力・表現力などを育てていく。

このように、知識は、能力とともに生かされ、高められていくものであることから、貧弱な知識や情報では役に立たない。そして、この知識は、1時間の授業の過程でいうと、授業の初めの一人一人の子どもの知識構造と1時間の授業の終わりの知識構造とは、変容し、深化していなければならない。このような知識は、重視されるべきなのである。

②生きて働く知識と能力を一体的に育てる学習材と典型材の組み合わせ

生きて働く知識は、豊かなイメージが描ける具体性をもつとともに、社会を観る尺度としての概念となることの両方を備えていなければならない。

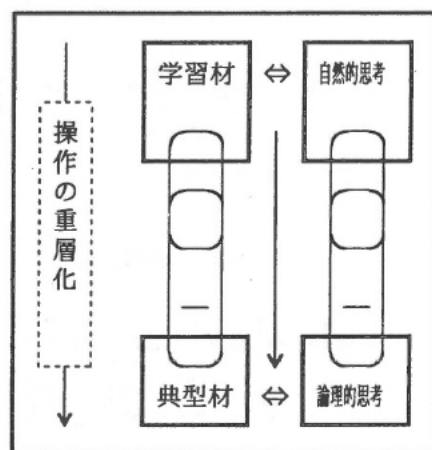
昨今、能力育成を重視した教育の改善が、各地で実践されているところである。しかし、従来の知識・理解中心の授業と変わっていないのが、取り扱う「教材」であり、「教材の考え方」である。

確かに、基礎・基本の内容を獲得していくことを重視した授業においては、教科書教材を「典型材」として重視してきた。このことは大変重要な「教材」の一面である。

しかし、新しい学力観に立つ能力育成を重視した授業においては、思考力・表現力・判断力を育成するのにふさわしい「教材」の考え方が成立しなければならない。

子どもが意欲をもち、個の能力に応じた取り組みができるより具象性のある『教材』が必要なのである。

この教材を学習材と呼ぶことにする。



このように、教材を「典型材」と「学習材」とから見ていきたい。

教育事典によると教材とは、「一定の教育目的を達成させるために選択された教育の具体的内容、文化的素材であり、あるいは、それを学習に適するように再構成し直したもの」と定義されている。

こう考えると、「典型材」は、一定の概念を得る教材である。

「学習材」は、具体事象をもとに 学びの能力を育成する教材と言える。内容的には、「地域性」「生活性」「文化性」をもつこと、方法的には、「学び方・操作方法」を工夫することができることを要件としたい。

学習材から典型材へと具体から抽象の道を歩む中で、子どもの知識は構造化される。言い換えると、問いと論証の過程を踏んでいくのである。

- ① 教材のままでは、個の能力に応じた取り組みはできない。
- ② 学習材になるか、どうかの吟味が大切
(地域性、生活性、文化性)
- ③ その学年の発達段階を踏まえた教材、学習材への加工

個が問いかけ働きかける学習材になっているかどうかを吟味することが重要である。

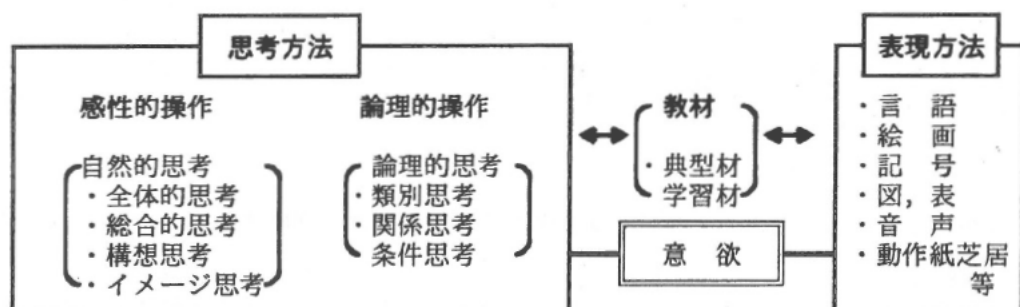
授業は、この「典型材」と「学習材」との組み合わせにより、「生きて働く知識」と「生涯にわたって学び続け、時代を切り開く能力」の一体的な育成の道が開けてくると考える。

③感性を重視した思考と表現の組み合わせ

ア 論理的操作と感性的操作の開発

生きる力を育成する一つの柱として能力の育成があることは、先に述べたとおりである。この能

力の中で、思考力と表現力の育成が要とされており、教材（典型材と学習材）を媒体にして、思考力は思考方法の工夫によって、また表現力は表現方法の工夫によって育成される。その全容を明らかにしたのが下図である。



図の解説をしておこう。対象（教材）に対して働きかけ思考することが表に表れてくるのは、表現物によってであり、表現しながら思考は高まっていく。思考と表現は一体的なものである。その思考方法で思考しつつ、表現方法で表現していく過程が「操作」である。「操作」は、思考と表現の一体的な作用といえる。

この「操作」には二通りあると考えたい。一つは「論理的操作」であり、もう一つは、「感性的操作」である。前者については、本部会が常に研究の対象とし、実践を積み重ねてきたところである。「比べる」「つなぐ」「かえる」の言葉で示される論理的操作については、ここでは、解説を控えたい。課題は、後者である。

イ 感性的操作について

「感性的操作」は、自然的思考といわれるように、全人格的な思考であり、その人の人柄思考ともいえよう。しかし、この自然的思考力の育成は、これまで意図的に開発されていない分野であり特に、最近のいじめ問題をはじめとする心の問題についても授業を通して思考力を育てることは、たいへん重要と考える。

感性的操作の必要性を具体的に挙げて説明してみよう。次の文は、教科書から選んだ文である。

高速道路が開通して。物を運ぶのに短時間で大量の荷物を送ることができるようになりました。

この事例は、対象を客観的にとらえた論理的な言葉で表現されている。それだけに冷たさを感じるし、自分とか相手とかの人間としてのかかわりが感じられない。本当にこのことを理解する・認知するためには、「自分を思い」、「相手を思い」、「対象物を思う」感情をともなった感性の言葉が必要なのである。この感性の言葉を掘り起こさないで、教師が教師の思いを尺度にして子どもを見ようとし、理解の程度を図ろうとして授業を展開しているのが現状とも言えるかもしれない。

上記の例でいえば、高速道路が開通して便利になったとすることの論理操作だけでよいが課題なのである。ここでは、どうしても、ここに道路ができる前の土地の様子や生活している人々の様子や気持ち、道路ができて自然環境に変化が起きた気持ちなどの「感情を言語に表し、それをもとに操作すること」が大切になってくる。

現在の授業研究の在り方を反省的に見つめたとき、この感性的操作の重要性が今後の課題として浮かび上がってくるのである。

ウ 豊かな感情を伴った思考操作

これまでも、思考と表現を組み合わせた活動の中で、主体的に自らの考えを築きあげていく能力を育成しようとしてきた。ただ、そのことに豊かでたくましく生きるという視点を忘れてしまうと、つい冷たい学習になっていく。

「事実としての事項と事項をつないで新たな考えを作り出そうとすること」にカード操作の学習が終始してしまうと、そこには人間としての生き方や在り方の入り込む隙間はなくなってしまふ。

1枚、1枚のカードに豊かなイメージや人間の物語、それに対する自分の思いや、願いを含めていく。一見すると無味乾燥な記号の背景に感情や気持ちを移入していく。多様な表現と同時に、そこに思いや願いを含めていくことで、人間としての生き方・在り方を求める学習となっていくと考える。

(3) 豊かにたくましく生きる人間づくりを求める教師の支援・援助活動

①支援・援助活動の態様

教師の支援・援助という、すぐに児童に直接助言を与えることだと考えがちである。

確かに教師の支援・援助は大きな役割を占めている。ただ、支援・援助活動は、他の児童の相互交流の場を設定したり、環境づくりを行ったりするような間接的なものも含めて幅広いものととらえたい。

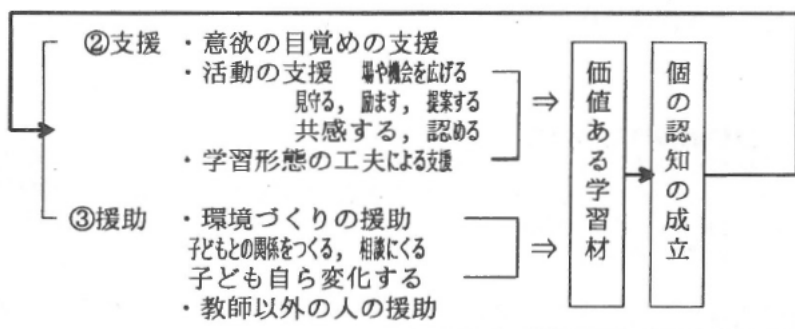
このような支援・援助をもとにしつつ、価値ある学習材を媒介にして、自分のよさや不十分な点を友だちの学びや、教師の整えた環境の中から見だしていくのである。

与えられるのを待つのではなく、自らが求めていく子どもの学びの姿を求めたい。

①内容・働き ア 環境による

イ 教師が子どもに直接関わる

ウ 地域や家庭との連携による



②自己意識を育てる自己評価・個のスタイル

自己意識は、「自分自身の考えや行動」、「長所や短所」、「社会的な立場や役割」、「自分自身の五感を通して感じたこと」、「周囲の人々からの期待感や不信感」など、自分自身を意識することである。

この自己意識は、子どもの自主的・自発的な活動の中で育てられ、高められる。教師は、その子らしさを発揮する活動の中で、方向付けたり秩序付けたりという支援・援助活動をすることが肝要となる。

ア 自己意識を育てることの効用

- ・ 自己意識が高まると、自分自身に関係のある内容についての認知は深まり、行動が積極的になる。
- ・ 自己意識が高まると、自己を高揚するよう記憶し、認知し、思考し、行動し、高い自己評価をしようとする。
- ・ 自己意識が高まると、自己の否定的な面を自らの体験によって修正しつつ、自覚的に自己実現を図ろうとする。

イ 自己意識を育てる要因と過程

要因

- ・ 自己評価を高める。(評価の観点としては、肯定的なもの「自信・誇り・自己受容など」否定的なもの「わがまま・消極的・抑制力不足など」が挙げられる。)
- ・ 言語的コミュニケーション・行為の役割表現による他者理解
- ・ 認知スタイルや学習スタイルなど個のスタイルに応じた支援・援助活動

過程

【自己を知る】

- ・ 一人一人が見たことや感じたことにちがいがあることに気づく。
- ・ 考えていることや感じていることを他の人に説明する。

【自己を深める】

- ・ 実感や本音が出せるような体験をする。
- ・ 自分にとって意味のある体験と思うことを他の人と交流する。
- ・ 自分の認識したこと、感じたことから、自分を意識する。

ウ 個の確立と集団ばなれ

自分自身を意識することは、友達とのかかわりなしには期待できない。昨今、集団ばなれをおこす子がふえてきている。さらに集団優先の考えを批判する立場から、集団離れを助長する風潮もある。子どもの生きる力の育成、言い換えると個の確立にはどうしても多様性を含んだ集団の力が必要である。

集団の中で、「自分のよさを生かしのばすこと」、「社会は共同体であり、そこでは自己抑制が必要なこと」を学ぶ。集団離れの必要性も認めつつ、授業の中で、そういった集団の力を個の確立にどう生かすか。これは、豊かにたくましく生きる人間づくりを求める教師の支援・援助活動のこれからの課題の一つになってくると考える。

【参考図書】 個が生きる認知過程の探究

- 真の学力形成を目指す教育課程 —
香川大学教育学部附属高松小学校 著 明治図書

新学力観に立つ社会科授業

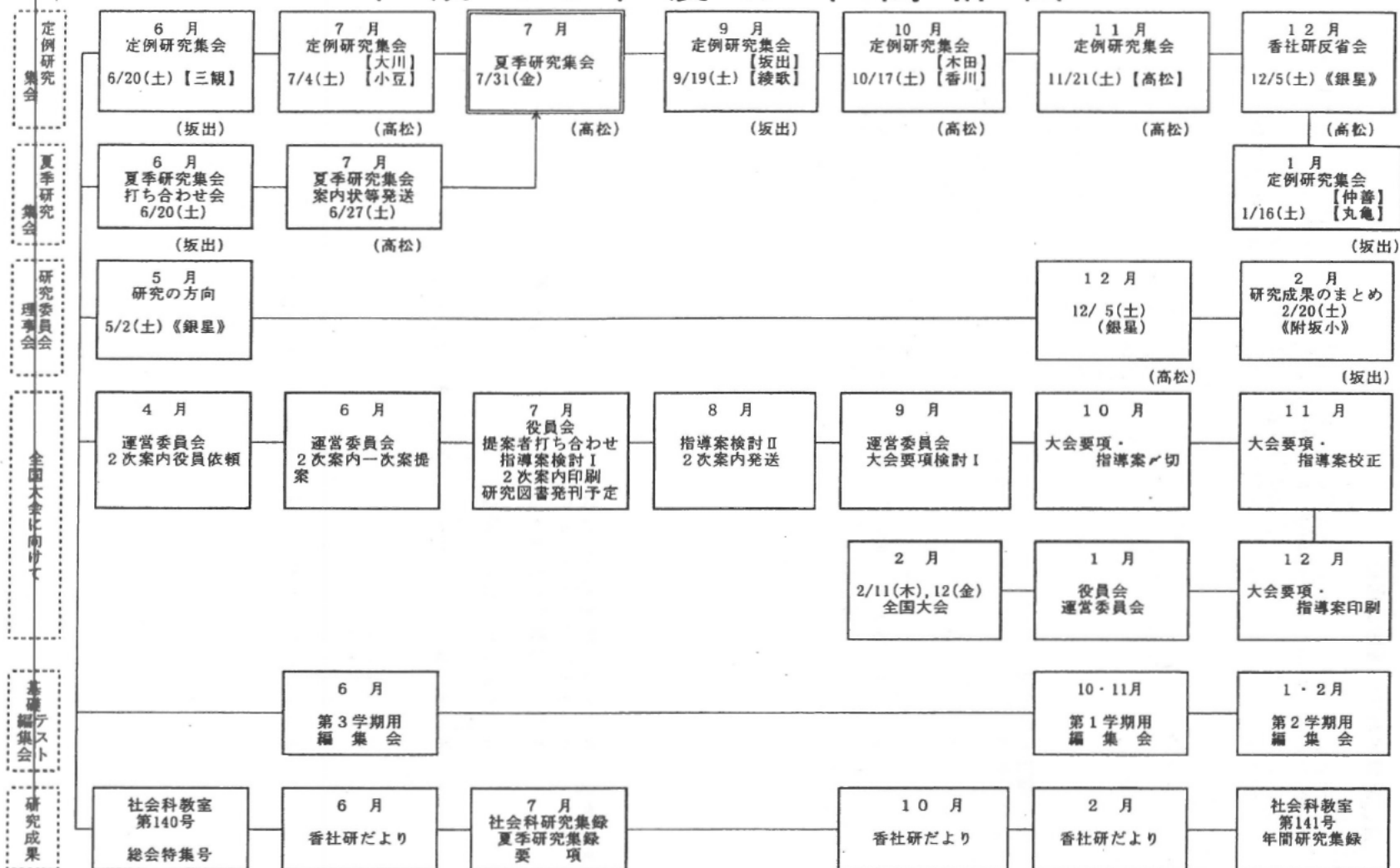
- 「問い」と「論証」の調べ学習 —
香川県小学校社会科教育研究会 著 明治図書

新教育課程の構想

総合学習・新社会科学習の実践

- 香川県小学校社会科教育研究会 著 明治図書

平成10年度の年間計画



平成10年度 郡市社研役員名簿

【高松社研】

役員名	氏 名	職名	勤務校	学 校 住 所	電 話
会 長	川 田 裕 史	校長	四 番 丁 小	高・番町1丁目5番1号	087-851-8390
副会長	伴 文 夫	"	亀 阜 小	高・亀岡町10番1号	087-861-2013
	上 川 敦 生	"	木 太 小	高・木太町3480番地1号	087-861-6337
	上 枝 幸 紀	"	屋 島 西 小	高・屋島西町2469番地	087-841-1063
庶 務	亀 井 伸 治	教諭	四 番 丁 小	高・番町1丁目5番1号	087-851-8390
	福 家 親 夫	"	築 地 小	高・築地町14番1	087-831-7188
	南 原 志 伸	"	木 太 小	高・木太町3480番1号	087-861-6337
	上 井 嘉	"	亀 阜 小	高・亀岡町10番1号	087-861-2013
会 計	大 橋 けい子	"	新塩屋町小	高・末広町5番地	087-851-2011
研究部	横 井 裕 子	教諭	亀 阜 小	高・亀岡町10番1号	087-861-2013
	池 田 理 恵	"	四 番 丁 小	高・番町1丁目5番1号	087-851-8390
	岡 本 英 孝	"	新塩屋町小	高・末広町5番地	087-851-2011
	稲 田 耕 一	"	中 央 小	高・松縄町807番1	087-866-2938

【丸亀社研】

役員名	氏 名	職名	勤務校	学 校 住 所	電 話
会 長	宮 武 順 一	校長	城 乾 小	丸・中府町五丁目15番1号	0877-22-8158
副会長	香 川 佳 和	教頭	飯 野 小	丸・飯野町西分93番地	0877-22-6019
	長 原 朱 実	教頭	広 島 小	丸・広島町江の浦439	0877-29-2031
庶 務	久保山 学	教諭	城 西 小	丸・六番丁12番地	0877-22-9267
会 計	合 田 吉 宏	教諭	城 東 小	丸・土器町西五丁目113番地	0877-24-4703
研究部	高 木 弘 信	教諭	城 坤 小	丸・今津町348番地	0877-24-4705
	樋 口 昌 樹	"	郡 家 小	丸・郡家町790番地	0877-28-8401
	小 山 善 弘	"	城 辰 小	丸・川西町北151番地	0877-28-7401
	高 木 由美子	"	垂 水 小	丸・垂水町1408番	0877-28-7551

【坂出社研】

役員名	氏 名	職名	勤 務 校	学 校 住 所	電 話
会 長	丸 野 忠 義	校長	東 部 小	坂・室町1-1-21	0877-46-0234
副会長	井 上 勝 之	"	金 山 小	坂・谷町3-1-23	0877-46-2329
	丸 野 昭 善	"	中 央 小	坂・寿町3-1-2	0877-46-2124
	木 本 珠 城	"	西 庄 小	坂・西庄町524-2	0877-46-2662
	廣 田 秀 雄	"	加 茂 小	坂・加茂町1099	0877-48-0601
	大 前 正 昭	"	林 田 小	坂・林田町2191	0877-47-0270
	森 口 訓 行	"	櫃 石 小	坂・櫃石585-17	0877-43-0203
庶 務 (会計)	吉 田 和 弘	教諭	東 部 小	坂・室町1-1-21	0877-46-0234
	大 西 浩 史	"	櫃 石 小	坂・櫃石585-17	0877-43-0203
研究部	寺 嶋 俊 秀	教諭	中 央 小	坂・寿町3-1-2	0877-46-2124
	高 尾 久 美 子	"	中 央 小	坂・寿町3-1-2	0877-46-2124

【小豆社研】

役員名	氏 名	職名	勤 務 校	学 校 住 所	電 話
会 長	亀 山 久 嘉	校長	大 部 小	小・土庄町大部甲1975	0879-67-2120
副会長	池 田 孝 徳	教頭	湊 崎 小	小・土庄町湊崎甲1256	0879-62-0072
庶 務	羽 座 則 史	教諭	土 庄 小	小・土庄町甲657-7	0879-62-0068
会 計					
研究部	穴 吹 眞 二	教諭	土 庄 小	小・土庄町甲657-7	0879-62-0068
	竹 内 久 司	"	星 城 小	小・内海町草壁本町632	0879-82-2011
	役 重 和 雅	"	安 田 小	小・内海町安田甲472	0879-82-2012
	池 田 茂 樹	"	福 田 小	小・内海町福田甲718-1	0879-84-2023

【大川社研】

役員名	氏 名	職名	勤 務 校	学 校 住 所	電 話
会 長	古 市 聖 治	校長	津 田 小	大・津田町津田144	0879-42-2047
副会長	八 木 育 夫	"	松 尾 小	大・大川町田面125	0879-43-3016
	小 倉 健 治	"	富 田 小	大・大川町富田西2595-2	0879-43-2016
庶 務	佐 藤 正 文	教頭	造 田 小	大・長尾町造田是弘688-1	0879-52-2141
	高 田 宏 隆	教諭	相 生 小	大・引田町南野204	0879-33-3627
	松 村 和 仁	"	津 田 小	大・津田町津田144	0879-42-2047
会 計	大 高 哲 也	"	造 田 小	大・長尾町造田是弘688-1	0879-52-2141
研究部	大 高 哲 也	教諭	造 田 小	大・長尾町造田是弘688-1	0879-52-2141
	橋 本 義 人	"	五 名 小	大・白鳥町五名1400	0879-25-3994
	松 村 和 仁	"	津 田 小	大・津田町津田144	0879-42-2047
	梅 本 明 宏	"	志 度 小	大・志度町大字志度727	087-894-0041

【木田社研】

役員名	氏 名	職名	勤 務 校	学 校 住 所	電 話
会 長	古 沢 博 美	校長	庵 治 二 小	木・庵治町6034-1	087-871-5110
副会長	山 下 晃	教頭	庵 治 小	木・庵治町790-1	087-871-2581
庶 務	小笠原 学	教諭	神 山 小	木・三木町奥山987	087-899-0254
会 計	長 岡 伸 幸	教諭	氷 上 小	木・三木町氷上2845	087-898-0710
研究部	櫛 本 初 代	教諭	庵 治 小	木・庵治町790-1	087-871-2581
	長 岡 伸 幸	"	氷 上 小	木・三木町氷上2845	087-898-0710
	柴 原 照 子	"	氷 上 小	木・三木町氷上2845	087-898-0710

【香川社研】

役員名	氏 名	職名	勤 務 校	学 校 住 所	電 話
会 長	鎌 野 修	校長	塩 江 小	香・塩江町安原上東365	087-893-0027
副会長	西 康比古	教頭	直 島 小	香・直島町1600	087-892-3007
庶 務	小比賀 隆 之	教諭	浅 野 小	香・香川町浅野3088	087-889-0215
会 計	長 谷 民 子	教諭	川 東 小	香・香川町川東上1865-8	087-879-2012
研究部	長 谷 民 子	教諭	川 東 小	香・香川町川東上1865-8	087-879-2012
	小 原 敏 昭	"	大 野 小	香・香川町大野1045-1	087-885-2165
	前 田 宏 之	"	安原小・戸石	香・塩江町安原下第2号857	087-897-0870

【綾歌社研】

役員名	氏 名	職名	勤 務 校	学 校 住 所	電 話
会 長	関 根 建 一	校長	羽 床 上 小	綾・綾上町羽床上788-1	087-878-0820
副会長	松 下 繁 美	教頭	国分寺南部小	綾・国分寺町福家甲3005	087-874-1160
庶 務	波 多 誠	教諭	宇多津北小	綾・宇多津町浜八番丁115	0877-49-2000
	有 岡 俊 文	"	昭 和 小	綾・綾南町畑田2381	087-877-0519
会 計	末 澤 康 彦	"	富 熊 小	綾・綾歌町富熊122	0877-86-2010
研究部	宇 山 知 昌	教諭	国分寺北部小	綾・国分寺町新居1880	087-874-1154
	高 吉 直 之	"	粉 所 小	綾・綾上町粉所西甲2060	087-878-2312
	宮 武 克 明	"	羽 床 上 小	綾・綾上町羽床上788-1	087-878-0820
	林 聖 士	"	国分寺南部小	綾・国分寺町福家甲3005	087-874-1160

【仲善社研】

役員名	氏 名	職名	勤 務 校	学 校 住 所	電 話
会 長	山 下 清 明	校長	長 炭 小	仲・満濃町炭所西1431-2	0877-79-2006
副会長	森 本 義 臣	教頭	琴 南 西 小	仲・琴南町造田1984-1	0877-85-2010
庶 務	森 井 信 一	教諭	四 箇 小	仲・多度津町三井433-1	0877-32-2517
	山 田 泰 二	"	豊 原 小	仲・多度津町南鴨704	0877-32-2050
会 計	小 林 規 子	教諭	多 度 津 小	仲・多度津町栄町三丁目1-9	0877-33-1616
	佐々木 和 恵	"	竜 川 小	善・原田町306-1	0877-62-0705
研究部	森 昭 二	"	善・東部小	善・稲木町450-1	0877-62-0703
	坂 倉 徹	"	多 度 津 小	仲・多度津町栄町三丁目1-9	0877-33-1616
	川 田 真 司	"	仲 南 西 小	仲・仲南町十郷追上下大口20	0877-77-2310
	山 内 秀 則	"	琴 平 小	仲・琴平町145-1	0877-73-2831

【三豊社研】

役員名	氏 名	職名	勤 務 校	学 校 住 所	電 話
会 長	大 西 孝 典	校長	常 磐 小	観・植田町365	0875-25-2988
副会長	西 谷 則 一	"	上 高 野 小	三・豊中町上高野2384	0875-62-2064
	藤 田 美代子	"	大 見 小	三・三野町大見甲3034-4	0875-72-5402
庶 務	安 藤 清 和	教諭	松 崎 小	三・詫間町松崎722	0875-83-2856
	白 杵 優	"	詫 間 小	三・詫間町詫間2158	0875-83-2858
会 計	白 杵 優	教諭	詫 間 小	三・詫間町詫間2158	0875-83-2858
研究部	岩 倉 隆 視	"	豊 浜 小	三・豊浜町和田浜1000	0875-52-2029 52-2151
	木 村 勝 美	"	箱 浦 小	三・詫間町箱551-1	0875-84-7356
	合 田 雅 気	"	本 山 小	三・豊中町本山甲1893	0875-62-2125
	赤 坂 光 敏	"	一ノ谷小	観・古川町102-1	0875-25-0204

【高 松 市】

	学 校 名	氏 名	担当学年
定 例 会	① 四 番 丁 小	亀 井 伸 治	5 年
	② 川 岡 小	藤 本 一 郎	6 年
	③ 築 地 小	福 家 親 夫	3 年
研 究 部	① 亀 阜 小	横 井 裕 子	専 科
	② 四 番 丁 小	池 田 理 恵	6 年
	③ 新 塩 屋 小	岡 本 英 孝	6 年
基 礎 テ ス ト 部	① 木 太 小	南 原 志 伸	5 年
	② 鶴 尾 小	黒 川 浩 一	4 年
	③ 香 西 小	葛 西 秀 樹	6 年
	④ 栗 林 小	雨 山 幸 代	1 年

【丸 亀 市】

	学 校 名	氏 名	担当学年
定 例 会	① 小 手 島 小	石 川 裕 之	5、6年
	② 城 南 小	多 田 明 広	3 年
	③ 城 坤 小	岡 田 陽 一	6 年
研 究 部	① 城 坤 小	高 木 弘 信	5 年
	② 城 辰 小	小 山 善 弘	6 年
	③ 垂 水 小	高 木 由 美 子	3 年
基 礎 テ ス ト 部	① 城 東 小	合 田 吉 宏	6 年
	② 城 西 小	久 保 山 学	4 年
	③ 城 乾 小	越 智 紳 一 郎	5 年

【坂 出 市】

	学 校 名	氏 名	担当学年
定 例 会	① 東 部 小	吉 田 和 弘	6 年
	② 中 央 小	寺 島 俊 秀	3 年
	③ 櫃 石 小	大 西 浩 史	4、5年
研 究 部	① 中 央 小	寺 嶋 俊 秀	3 年
	② "	高 尾 久 美 子	T、T
	③		
基礎 テスト部	① 府 中 小	福 家 光 洋	5 年
	② 松 山 小	大 西 祐 子	6 年
	③		

【小 豆 郡】

	学 校 名	氏 名	担当学年
定 例 会	① 福 田 小	池 田 茂 樹	同 主
	② 土 庄 小	穴 吹 眞 二	障 害 児
	③		
研 究 部	① 安 田 小	役 重 和 雅	5 年
	② 星 城 小	竹 内 久 司	T、T
	③		
基礎 テスト部	① 北 浦 小	林 宗 利	4 年
	②		
	③		

【大 川 郡】

	学 校 名	氏 名	担当学年
定 例 会	① 相 生 小	高 田 宏 隆	4 年
	② 誉 水 小	沖 肅 二	4 年
	③ 津 田 小	松 村 和 仁	4 年
研 究 部	① 造 田 小	大 高 哲 也	T、T
	② 五 名 小	橋 本 義 人	1 年
	③ 三 本 松 小	永 坂 邦 彦	3 年
基礎 テスト 部	① 津 田 小	松 村 和 仁	4 年
	② 造 田 小	大 高 哲 也	T、T
	③ 相 生 小	高 田 宏 隆	4 年

【木 田 郡】

	学 校 名	氏 名	担当学年
定 例 会	① 平 井 小	佐 伯 光 子	5 年
	② 牟 礼 北 小	泉 聡	4 年
	③ 平 井 小	土 居 京 子	5 年
研 究 部	① 庵 治 小	櫛 本 初 代	4 年
	② 氷 上 小	長 岡 伸 幸	4 年
	③ 氷 上 小	柴 原 照 子	5 年
基礎 テスト 部	① 神 山 小	小 笠 原 学	3 年
	② 白 山 小	檜 原 一 宏	6 年
	③ 白 山 小	藤 岡 正 樹	同 主

【香 川 郡】

	学 校 名	氏 名	担当学年
定 例 会	① 浅 野 小	小 比 賀 隆 之	4 年
	② 香 南 小	宮 田 一 真	6 年
	③ 塩 江 小	星 野 真 理 子	5 年
研 究 会	① 浅 野 小	長 谷 民 子	障 害 児
	② 大 野 小	小 原 敏 昭	3 年
	③ 香 南 小	前 田 宏 之	3、4年
テ ス ト 部	① 香 南 小	小 西 俊 毅	4 年
	② 安 原 小	橋 本 英 敏	6 年
	③ 大 野 小	野 土 裕 彦	6 年

【綾 歌 郡】

	学 校 名	氏 名	担当学年
定 例 会	① 宇 多 津 北 小	波 多 誠	5 年
	② 昭 和 小	有 岡 俊 文	2 年
	③ 飯 山 南 小	徳 永 桂 子	6 年
研 究 部	① 飯 山 南 小	萱 原 照 子	3 年
	② 国 分 寺 北 部 小	長 友 章 子	6 年
	③ 粉 所 小	鳥 居 久 宮 子	1 年
	④ 国 分 寺 北 部 小	宇 山 知 昌	3 年
	⑤ 富 熊 小	末 澤 康 彦	5 年
	⑥ 国 分 寺 南 部 小	林 聖 士	5 年
テ ス ト 部	① 粉 所 小	高 吉 直 之	5 年
	② 羽 床 上 小	宮 武 克 明	5 年
	③ 国 分 寺 南 部 小	平 野 希 代 子	3 年

【仲多度郡・善通寺市】

	学 校 名	氏 名	担当学年
定 例 会	① 中 央 小	岩 崎 保 雄	5 年
	② 琴 平 小	片 井 功	6 年
	③ 満 濃 南 小	高 橋 義 徳	6 年
研 究 部	① 東 部 小	森 昭 二	6 年
	② 多 度 津 小	坂 倉 徹	5 年
	③ 仲 南 西 小	川 田 真 司	6 年
基礎 テスト 部	① 四 条 小	北 分 秀 樹	6 年
	② 南 部 小	藤 六 健	専 科
	③ 琴 平 小	山 内 秀 則	5 年

【三 豊 郡】

	学 校 名	氏 名	担当学年
定 例 会	① 松 崎 小	安 藤 清 和	専 科
	② 詫 間 小	白 杵 優	6 年
	③ 一 ノ 谷 小	赤 坂 光 敏	6 年
研 究 部	① 豊 浜 小	岩 倉 隆 視	専 科
	② 箱 浦 小	木 村 勝 美	4 年
	③ 本 山 小	合 田 雅 気	5 年
基礎 テスト 部	① 高 室 小	三 崎 彰 夫	4 年
	② 栗 島 小	萬 亀 弘 吉	5、6年複式
	③ 松 崎 小	石 川 博 健	6 年

平成10年度 香社研会員名簿

高松市

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
1	760-0017	番町1-5-1	四 番 丁 小	校長	川 田 裕 史	087 851-8390	
2	"	"	"	教頭	真 鍋 道 博	"	
3	"	"	"	3	大 嶋 和 彦	"	
4	"	"	"	5	亀 井 伸 治	"	
5	"	"	"	6	池 田 理 恵	"	
6	760-0006	亀岡町10-1	亀 阜 小	校長	伴 文 夫	861-2013	
7	"	"	"	教頭	高 橋 英 次	"	
8	"	"	"	3	金 崎 美 穂	"	
9	"	"	"	5	熊 野 真 美	"	
10	"	"	"	5	上 井 嘉	"	
11	"	"	"	6	市 原 茂 幹	"	
12	"	"	"	専科	横 井 裕 子	"	
13	760-0073	栗林町2-10-7	栗 林 小	1	雨 山 幸 代	861-3438	
14	"	"	"	3	寺 島 幹 人	"	
15	"	"	"	5	辻 布佐江	"	
16	"	"	"	6	真 鍋 康 秀	"	
17	760-0061	築地町14-1	築 地 小	3	福 家 親 夫	831-7188	
18	760-0060	末広町5	新塩屋町小	3	大 橋 けい子	851-2011	
19	"	"	"	4	高 橋 洋 子	"	
20	"	"	"	6	岡 本 英 孝	"	
21	761-8052	松並町636-1	鶴 尾 小	4	黒 川 浩 一	867-2564	
22	"	"	"	5	日 下 浩 子	"	
23	760-0080	木太町3480-1	木 太 小	校長	上 川 敦 生	861-6337	
24	"	"	"	4	佐々木 誠	"	
25	"	"	"	4	木 村 ますみ	"	
26	"	"	"	5	南 原 志 伸	"	
27	761-0104	高松町398	古 高 松 小	4	宇喜多 孝 明	841-9204	
28	761-0113	屋島西町1205-1	屋 島 小	6	青 木 隆 明	841-1538	
29	"	"	"	6	大 奥 洋 介	"	
30	761-0312	東山崎町207-1	川 添 小	3	榎 貴 志	847-6055	

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
31	761-0312	東山崎町207-1	川 添	6	藤 田 忠 彦	847-6055	
32	761-0301	林町1108-1	林 小	教頭	藤 田 和 代	865-6250	
33	"	"	"	3	井 上 泉	"	
34	"	"	"	専科	向 永 和 資	"	
35	761-0450	三谷町217-1	三 溪 小	教頭	野 島 悟	889-0767	
36	761-8046	川部町1552	川 岡 小	1	黒 川 紀 子	885-1253	
37	"	"	"	6	藤 本 一 郎	"	
38	761-8032	鶴市町374-1	弦 打 小	校長	林 靖 子	881-3523	
39	761-0447	菅沢町339	東 植 田 小	教頭	徳 田 仁 司	893-0036	
40	"	"	"	6	福 家 正 人	"	
41	760-0079	松縄町807-1	中 央 小	4	稲 田 耕 一	866-2938	
42	761-8073	太田下町1823-1	太 田 南 小	5	姫 田 朋 樹	865-9395	
43	"	"	"	6	平 田 紀久夫	"	
44	"	"	"	6	島 田 しおり	"	
45	761-0111	屋島東町942-1	屋 島 東 町	5	木 村 悦 子	843-8402	
46	761-0113	屋島西町2469	屋 島 西 町	校長	上 枝 幸 紀	841-1063	
47	"	"	"	教頭	三 井 重 彰	"	
48	760-0006	亀岡町10-1	亀 阜 小	教頭	赤 松 よし子	861-2013	

丸亀市

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
1	763-0033	中府町5-15-1	城 乾 小	校長	宮 武 順 一	0877 22-8158	
2	"	"	"	5	越 智 紳一郎	"	
3	"	"	"	3	高 木 京 子	"	
4	763-0051	今津町348	城 坤 小	6	岡 田 陽 一	24-4705	
5	"	"	"	5	高 木 弘 信	"	
6	"	"	"	障	森 川 宏 子	"	
7	763-0002	瓦町95	城 北 小	6	木 村 真 澄	24-4700	
8	763-0026	六番丁12	城 西 小	4	久保山 学	22-9267	
9	"	"	"	3	中 條 寿 代	"	
10	"	"	"	教務	氏 家 雅 子	"	
11	763-0071	田村町973	城 南 小	6	山 野 正 登	24-6177	
12	"	"	"	3	多 田 明 広	"	

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
13	763-0071	田村町973	城 南 小	1	亀 井 雅 子	24-6177	
14	763-0081	土器町西5-113	城 東 小	6	合 田 吉 宏	24-4703	
15	763-0091	川西町北151	城 辰 小	6	小 山 善 弘	28-7401	
16	"	"	"	6	宮 武 紀 子	"	
17	"	"	"	TT	大 西 直 人	"	
18	763-0093	郡家町790-1	郡 家 小	6	樋 口 昌 樹	28-8401	
19	"	"	"	5	増 井 泰 弘	"	
20	"	"	"	4	守 家 恵 子	"	
21	763-0086	飯野町西分113	飯 野 小	5	佐々原 正 樹	22-6019	
22	"	"	"	教頭	香 川 佳 和	"	
23	763-0095	垂水町1488	垂 水 小	5	若 林 菜穂子	28-7551	
24	"	"	"	3	高 木 由美子	"	
25	"	"	"	TT	平 澤 昌 司	"	
26	763-0102	広島町江の浦439	広 島 小	教頭 5	長 原 朱 実	29-2031	
27	763-0108	広島町小手島2782	小 手 島 小	5、6	石 川 裕 之	29-2751	

坂出市

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
1	762-0042	白金町1-3-7	西 部 小	TT	野 村 亮 子	0877 46-2149	
2	762-0043	寿町3-1-2	中 央 小	校長	丸 野 昭 善	46-2124	
3	"	"	"	教頭	亀 井 彰	"	
4	"	"	"	3	寺 嶋 俊 秀	"	
5	"	"	"	TT	高 尾 久美子	"	
6	"	"	"	5	丸 岡 小百合 (小 玉 孝 章)	"	
7	762-0007	室町1-1-21	東 部 小	6	吉 田 和 弘	46-0234	
8	762-0033	谷町3-1-23	金 山 小	校長	井 上 勝 之	46-2329	
9	762-0021	西庄町524-2	西 庄 小	専科	岡 本 敏 英	46-2662	
10	"	"	"	専科	田 中 秀 年	"	
11	762-0023	加茂町1099	加 茂 小	校長	廣 田 秀 雄	48-0601	
12	"	"	"	教頭	山 地 正 子	"	
13	762-0021	府中町1193-3	府 中 小	5	福 家 光 洋	48-0610	
14	762-0025	川津町3093-1	川 津 小	6	真 鍋 由紀子	46-3884	
15	"	"	"	3	栗 林 由里子	"	

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
16	762-0017	高屋町1050	松 山 小	6	大 西 祐 子	47-0606	
17	762-0067	瀬居町1490	瀬 居 小	1	熊 本 けい子	46-9194	
18	762-0073	櫃石585-17	櫃 石 小	教頭	金 井 宏 諾	43-0203	
19	"	"	"	4、5	大 西 浩 史	"	
20	762-0031	文京町2-4-2	附 坂 小	専科	福 岡 和 信	46-2692	
21	"	"	"	5	佐 柳 仁	"	
22	762-0021	西庄町524-2	西 庄 小	校長	木 本 珠 城	46-2662	
23	762-0012	林田町2191	林 田 小	校長	大 前 正 昭	47-0270	
24	762-0024	府中町1193-3	府 中 小	2	沼 田 久仁子	48-0610	
25	762-0025	川津町3093-1	川 津 小	教頭	鈴 木 清 子	46-3884	
26	762-0007	室町1-1-21	東 部 小	校長	丸 野 忠 義	46-0234	
27	"	"	"	内留	地 下 浩 文	"	
28	762-0066	沙弥島152	沙 弥 小	2	香 川 和 美	45-6016	
29	762-0073	櫃石585-17	櫃 石 小	校長	森 口 訓 行	43-0203	
30	762-0043	寿町3-1-2	中 央 小	1	香 川 浩 子	46-2124	
31	"	"	"	4	河 野 富 男	"	
32	"	"	"	6	白 川 豊 浩	"	
33	"	"	"	4	川 井 一 代	"	
34	"	"	"	2	白 井 純 子	"	
35	"	"	"	1	楠 原 一 恵	"	

小豆郡

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
1	761-4106	土庄町甲657-7	土 庄 小	障	穴 吹 眞 二	0879 62-0068	
2	"	"	土 庄 小	障	羽 座 則 史	"	
3	"	"		6	川 井 慶 太	"	
4	761-4101	土庄町甲3417	戸 形 小	4	山 本 弘 子	62-0108	
5	761-4121	土庄町湊崎甲1256	湊 崎 小	教頭	池 田 孝 徳	62-0072	
6	"	"	"	障	福 井 健 文	"	
7	761-4151	土庄町肥土山甲1795	大 鐸 小	3	岡 亨	62-0712	
8	761-4145	土庄町大部甲1975	大 部 小	校長	亀 山 久 嘉	67-2120	
9	"	"	"	5	馬 場 直 明	"	
10	761-4143	土庄町見目甲1587	北 浦 小	4	林 宗 利	65-2021	

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
11	761-4661	土庄町豊島家浦2516	豊 島 小	同主	塩 見 強	68-2020	
12	761-4301	池田町池田1760	池 田 小	4	森 玲 子	75-2222	
13	761-4432	内海町草壁本町632	星 城 小	TT	竹 内 久 司	82-2011	
14	761-4411	内海町安田甲472	安 田 小	5	役 重 和 雅	82-2012	
15	761-4402	内海町福田甲718-1	福 田 小	同主	池 田 茂 樹	84-2023	

大川郡

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
1	769-29	引田町南野204	相 生 小	4	高 田 宏 隆	0879 33-3627	
2	769-27	白鳥町白鳥525	白 鳥 小	教頭	熊 田 正 美	25-2642	
3	"	"	"	6	古 澤 哲 夫	"	
4	769-27	白鳥町与田山351	福 栄 小	教頭	大 岡 真 海	27-2323	
5	769-27	白鳥町五名1400	五 名 小	1	橋 本 義 人	29-2003	
6	769-26	大内町三本松862-1	三 本 松 小	3	永 坂 邦 彦	25-2664	
7	769-26	大内町中筋425	誉 水 小	教頭	三 好 憲 昭	25-2044	
8	"	"	"	4	沖 肅 二	"	
9	761-09	大川町田面125	松 尾 小	校長	八 木 育 夫	43-3016	
10	"	"	"	4	山 下 勝 正	"	
11	761-09	大川町富田西2595-2	富 田 小	教頭	小 倉 健 治	43-2016	
12	"	"	"	6	岡 田 保	"	
13	769-23	寒川町石田東甲425	石 田 小	育成 七	廣 瀬 強	43-2006	
14	"	"	"	4	山 下 博	"	
15	769-23	寒川町神前1615	神 前 小	5	西 山 雅 道	43-2124	
16	769-23	長尾町東901-1	長 尾 小	6	西 原 加世子	52-3181	
17	766-23	長尾町造田是弘688-1	造 田 小	教頭	佐 藤 正 文	52-2141	
18	"	"	"	TT	大 高 哲 也	"	
19	769-21	志度町大字志度727	志 度 小	4	梅 本 明 宏	087 894-0041	
20	769-24	津田町津田144	津 田 小	校長	古 市 聖 治	0879 42-2047	
21	"	"	"	4	松 村 和 仁	"	
22	769-24	津田町鶴羽781-2	鶴 羽 小	5	六 車 浩	42-2041	
23	"	"	"	同主	松 本 明 子	"	
24	769-27	白鳥町松原167-1	本 町 小	3	素 島 博 人	25-3064	

木田郡

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
1	761-0702	三木町平木710-1	平 井 小	5	佐 伯 光 子	898-0713	
2	"	"	"	5	土 井 京 子	"	
3	761-0122	牟礼町大町1560	牟 礼 小	3	脇 多佳子	"	
4	761-0122	牟礼町大町1115-1	牟 礼 南 小	4	小比賀 容 子	845-9324	
5	761-0130	庵治町790-1	庵 治 小	4	櫛 本 初 代	871-2581	
6	761-06	三木町氷上2845	氷 上 小	5	柴 原 照 子	898-0710	
7	"	"	"	障	前 田 香 織	"	
8	"	"	"	4	長 岡 伸 幸	"	
9	761-0121	牟礼町牟礼2900-1	牟 礼 北 小	4	泉 聡	845-9239	
10	761-0704	三木町下高岡352-1	白 山 小	6	櫻 原 一 宏	898-0257	
11	"	"	"	同主	藤 岡 正 樹	"	
12	761-0822	三木町奥山987	神 山 小	3	小笠原 学	899-0254	
13	761-0130	庵治町6034-1	庵治第二小	校長	古 沢 博 美	871-5110	
14	761-0130	庵治町790-1	庵 治 小	教頭	山 下 晃	871-2581	

香川郡

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
1	761-1612	塩江町安原上東365	塩 江 小	校長	鎌 野 修	087 893-0027	
2	"	"	"	5	星 野 真理子	"	
3	761-1614	塩江町上西乙461	上 西 小	4	十 河 和 彦	893-0045	
4	761-1502	塩江町安原下2号1684	安 原 小	6	橋 本 英 敏	897-0008	
5	761-1502	塩江町安原下2号857	安原小戸石分校	3、4	前 田 宏 之		
6	761-1404	香南町横井461	香 南 小	4	小 西 俊 毅	879-2269	
7	"	"	"	6	宮 田 一 真	"	
8	761-1706	香川町川東上1865-8	川 東 小	障	長 谷 民 子	879-2012	
9	"	"	"	2	小比賀 節 子	"	
10	"	"	"	3	宮 脇 好 美	"	
11	761-1703	香川町浅野3088	浅 野 小	4	小比賀 隆 之	889-0215	
12	"	"	"	1	川 田 康 代	"	
13	761-1701	香川町大野1045-1	大 野 小	校長	植 松 勝	885-2165	
14	"	"	"	3	小 原 敏 昭	"	
15	"	"	"	6	野 土 裕 彦	"	

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
16	761-3110	直島町1600	直 島 小	教頭	西 康比古	892-3007	
17	"	"	"	4	吉 原 直 美	"	

綾歌郡

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
1	761-2202	綾上町粉所西甲2060	粉 所 小	1	鳥 居 久宮子	087 878-2312	
2	"	"	"	5	高 吉 直 之	"	
3	761-2203	綾上町山田上甲1494-1	山 田 小	4	青 木 弥 生	878-2004	
4	761-2207	綾上町羽床上788-1	羽 床 上 小	校長	関 根 建 一	878-0820	
5	"	"	"	5	宮 武 克 明	"	
6	761-2101	綾南町大字畑田2381	昭 和 小	1	有 岡 俊 文	877-0519	
7	761-2103	綾南町大字陶5878	陶 小	2	谷 口 和 幸	876-1182	
8	"	"	"	4	山 内 雅 子	"	
9	761-2305	綾南町大字滝宮1100	滝 宮 小	校長	山 崎 敏 和	876-1183	
10	"	"	"	6	小 川 美 和	"	
11	"	"	"	2	三 好 道 代	"	
12	761-0101	国分寺町新居1880	国分寺北部小	3	宇 山 知 昌	874-1154	
13	"	"	"	6	長 友 章 子	"	
14	"	"	"	4	長 門 節 子	"	
15	"	"	"	6	牧 野 啓 造	"	
16	769-0103	国分寺町福家甲3005	国分寺南部小	校長	宇 多 龍 児	874-1160	
17	"	"	"	教頭	松 下 繁 美	"	
18	"	"	"		眞 井 孝 征	"	
19	"	"	"	3	平 野 希代子	"	
20	"	"	"	5	林 聖 士	"	
21	"	"	"	4	福 家 優 子	"	
22	761-2408	綾歌町富熊1227	富 熊 小	5	末 澤 康 彦	0877 86-2010	
23	"	"	"	6	中 野 昇 一	"	
24	761-2402	綾歌町岡田下217	岡 田 小	5	氏 家 敏 文	86-3004	
25	762-0084	飯山町上法軍寺1206	飯 山 南 小	3	萱 原 照 子	98-2024	
26	"	"	"	6	徳 永 桂 子	"	
27	762-0082	飯山町川原1874	飯 山 北 小	2	中 村 和歌子	98-2020	
28	769-0208	宇多津町浜八番丁115	宇多津北小	5	波 多 誠	49-2000	

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
29	796-0208	宇多津町浜八番丁115	宇多津北小	1	藤 原 祐 子	49-2000	

仲多度・善通寺

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
1	766-0013	満濃町東高篠139	高 篠 小	3	吉 村 富士代	0877 73-3842	
2	766-0021	満濃町四条728	四 条 小	6	北 分 英 樹	73-5514	
3	"	"	"	5	大喜多 峯 子	"	
4	766-0023	満濃町吉野74	満 濃 南 小	6	高 橋 義 徳	79-2110	
5	766-0017	満濃町炭所西1431-2	長 炭 小	校長	山 下 清 明	79-2006	
6	766-0201	琴南町造田1984-1	西 小	教頭	森 本 義 臣	85-2010	
7	766-0203	琴南町川東919	東 小	2	川 田 須美子	84-2333	
8	769-0303	仲南町七箇2529	仲 南 東 小	3	澤 田 恵 子	77-2140	
9	769-0319	仲南町十郷字追上下 大口20	仲 南 西 小	6	川 田 真 司	77-2310	
10	769-0310	仲南町十郷750-4	仲 南 北 小	5	谷 口 時 美	75-4032	
11	766-0002	琴平町145-1	琴 平 小	6	片 井 功	73-2831	
12	"	"	"	5	山 内 秀 則	"	
13	766-0004	琴平町榎井58-3	榎 井 小	3	宮 本 正 輝	73-2494	
14	766-0006	琴平町上櫛梨26	象 郷 小	教頭	大 平 正 貴	73-2830	
15	764-0032	多度津町三井433-1	四 箇 小	6	森 井 信 一	32-2517	
16	"	"	"	5	芝 和 世	"	
17	764-0035	多度津町奥白方1142	白 方 小	5	亀 山 典 良	32-3331	
18	764-0026	多度津町南鴨704	豊 原 小	1	香 川 敦 子	32-2050	
19	"	"	"	6	山 田 泰 二	"	
20	764-0011	多度津町栄町三丁目 1-9	多 度 津 小	教頭	三 井 尚	33-1616	
21	"	"	"	6	小 林 規 子	"	
22	"	"	"	5	坂 倉 徹	"	
23	765-0013	善通寺市文京町四丁目 5-1	中 央 小	5	岩 崎 保 雄	62-1616	
24	"	"	"	3	篠 原 正 議	"	
25	765-0004	善通寺市善通寺町1146	西 部 小	5	勝 田 キミヨ	62-0701	
26	765-0053	善通寺市生野町2990-1	南 部 小	専科	藤 六 健	62-0702	
27	765-0022	善通寺市稲木町450-1	東 部 小	6	森 昭 二	62-0703	
28	765-0040	善通寺市与北町1238	与 北 小	校長	伊 崎 義 晴	62-0704	
29	765-0032	善通寺市原田町306-1	竜 川 小	3	佐々木 和 恵	62-0705	

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
30	765-0032	善通寺市原田町306-1	竜 川 小	3	武 田 郁 子	62-0705	
31	765-0073	善通寺市中村町1575-2	筆 岡 小	3	嶋 田 育 子	62-0706	
32	"	"	"	4	福 崎 美 穂	"	
33	765-0061	善通寺市吉原町2811	吉 原 小	2	亀 山 由 佳	62-0707	
34	"	"	"	校長	梅 木 正 信	"	

三豊郡

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
1	769-1602	三・豊浜町和田浜1000	豊 浜 小	校長	大 山 正 子	52-2029 52-2151	
2	"	"	"	専科	岩 倉 隆 視	"	
3	768-0071	観・伊吹町309番地	伊 吹 小	4	安 藤 雅 慶	29-2103	
4	768-0012	観・植田町365	常 磐 小	校長	大 西 孝 典	25-2988	
5	768-0033	観・新田町1413	豊 田 小	校長	牧 野 五十鈴	27-6303	
6	"	"	"	3	宝 田 小夜子	"	
7	768-0023	観・古川町102-1	一ノ谷小	6	赤 坂 光 敏	25-0204	
8	768-0060	観・観音寺町甲1186-2	観 音 寺 南 小	教頭	岡 根 淳 二	25-4675	
9	"	"	"	障	岸 上 也寸志	"	
10	768-0002	観・高屋町1877-1	高 室 小	4	三 崎 彰 夫	25-2661	
11	768-0052	観・粟井町1452	粟 井 小		長谷川 剛	27-6229	
12	769-1506	三・豊中町本山甲1893	本 山 小	5	合 田 雅 気	62-2125	
13	"	"	"	校長	各 務 清	"	
14	769-1507	三・豊中町岡本188-1	桑 山 小	6	吉 田 匡 克	62-2103	
15	769-1504	三・豊中町上高野2384	上 高 野 小	校長	西 谷 則 一	62-2064	
16	"	"	"	教頭	田 井 秀 典	"	
17	"	"	"	内留	安 藤 通	"	
18	767-0011	三・高瀬町下勝間803	勝 間 小	専科	宮 武 一 美	72-5329	
19	767-0013	三・高瀬町大字下麻 1209番地	麻 小	校長	前 田 高 次	74-6237	
20	767-0031	三・三野町大見甲3034	大 見 小	校長	藤 田 美代子	72-5402	
21	767-0004	三・高瀬町比地93	比 地 小	専科	大久保 進	72-5213	
22	"	"	"	6	木 谷 厚 子	"	
23	"	"	"	4	深 川 隆	"	
24	769-1101	三・詫間町詫間2158	詫 間 小	教頭	渡 辺 重 忠	83-2858	
25	"	"	"	6	白 杵 優	"	

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
26	769-1104	三・詫間町大字大浜甲 1633番地1	大 浜 小	5	秋 元 一 秀	84-7359	
27	769-1108	三・詫間町栗島1506-2	栗 島 小	5、6	萬 亀 弘 吉	84-7012	
28	769-1106	三・詫間町箱551-1	箱 浦 小	4	木 村 勝 美	84-7356	
29	769-1102	三・詫間町松崎722	松 崎 小	専科	安 藤 清 和	83-2856	
30	"	"	"	5	名 越 盟 人	"	
31	"	三・詫間町松崎722	松 崎 小	6	石 川 博 健	83-2856	
32	768-0052	観・栗井町1452	栗 井 小	校長	藤 田 都 明	27-6229	

